

2. 火山の概況

(平成 16年 3月 11日 ~ 平成 16年 3月 17日)

浅間山では地震がやや多い状態が続いた。
火山活動度レベル
 レベルは2。

三宅島では噴煙活動が継続し、多量の火山ガスの放出が続いた。

阿蘇山では浅部の熱的な活動が引き続き活発で、小規模な土砂噴出が継続した。レベルは2。

霧島山では噴気活動が継続していた。

桜島では噴煙活動がやや活発になった。レベルは2。

薩摩硫黄島では連続微動が発生した。

口永良部島では地震がやや多く発生した。

諏訪之瀬島では噴火が発生した。



図1 記事を掲載した火山

表1 最近1か月に記事を記載した火山

号	対象期間	浅間山		伊豆大島		阿蘇山		雲仙岳		桜島	十勝岳	秋田焼山	岩手山	秋田駒ヶ岳	吾妻山	三宅島	福徳岡ノ場	霧島山	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島	
		レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号													
12	3/11- 3/17																					
11	3/ 4- 3/10																					
10	2/26- 3/ 3																					
9	2/19- 2/25																					
8	2/12- 2/18																					

注1 記号の意味

- ：噴火した火山
- △：観測データ等に变化があった火山
- ◇：前期間まで や で掲載した火山の、その後の状況等
- ：その他記事を掲載した火山
- 等の丸付き数字：火山活動度レベル

注2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ項目を示す。

秋田焼山・岩手山・秋田駒ヶ岳

15日に東北地方整備局の協力により実施した上空からの観測では、噴気活動の状態や山体の地形等に特段の変化はみられなかった。

浅間山 [地震・微動・熱] レベル2 (やや活発な火山活動)

昨年6月末頃からやや多く観測されるようになった振幅の小さい地震は、今期間は1日あたり11~45回と依然多く発生しているものの、減少傾向がみられている。

振幅の小さい微動は16日に1回観測された(前期間は9回)。

群馬県林務部が火口縁に設置している赤外線カメラにより、火口底に引き続き高温部が確認されたが、その範囲は次第に狭くなっている。

伊豆大島 レベル1（静穏な火山活動）

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなかった。

三宅島 [地震・微動・噴煙・火山ガス]

5日以降に活発化した地震活動は今期間も活発で、やや低周波地震は1日あたり18～292回観測されたが、今期間の後半には減少した。また、12日頃から連続微動の振幅が間欠的に十数分間程度増大する現象が発生した。このような現象は、2003年8月、9月にもみられている。なお、これらの地震活動の活発化や微動の振幅の増大に際して、その他の観測データに特段の変化はなかった。

白色噴煙は山頂火口から連続的に噴出しており、期間中の高さの最高は火口縁上1,500mであった。17日に行った上空からの観測¹⁾では、噴煙活動や火口内の地形等の状況に大きな変化は見られなかった。同時に行った火山ガスの観測¹⁾では、二酸化硫黄の放出量が日量2,700～3,400トンと長期的には低下傾向がみられるものの依然多い状態であった（図2）。

GPSによる地殻変動観測では、昨年6月頃から再び三宅島の収縮傾向を示している。

1) 東京消防庁の協力による

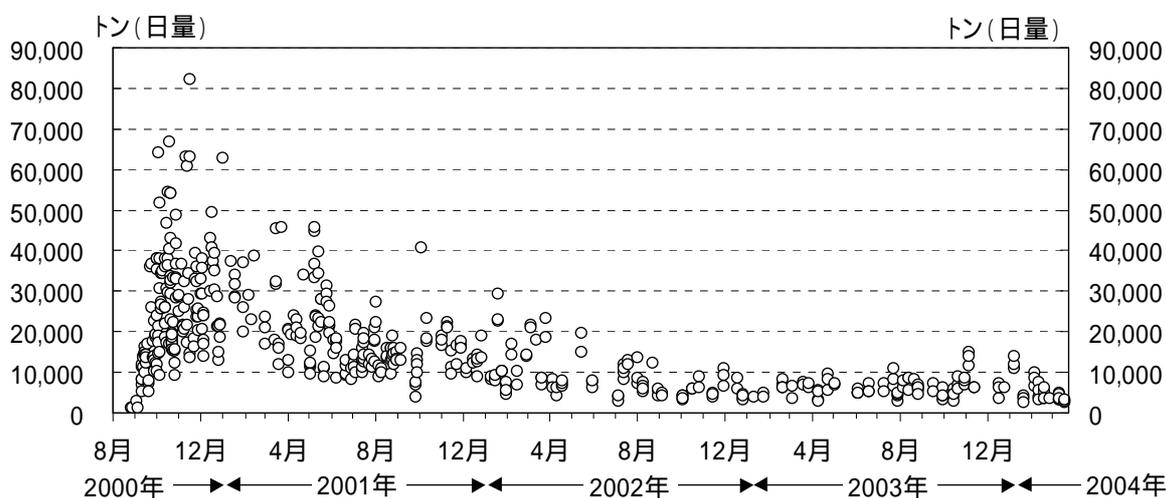


図2 三宅島 二酸化硫黄放出量の推移（2000年8月26日～2004年3月17日）

阿蘇山 [熱・土砂噴出・微動・地震] レベル2（やや活発な火山活動） <期間外の記述を含む>

中岳第一火口の浅部の熱的な活動が引き続き活発で、小規模な土砂噴出が継続した。

16日に阿蘇山測候所が行った現地観測によると、中岳第一火口の状況は、湯だまりの色は灰色、湯量は約3割（前期間までは約4割）に減少し、湯だまりの表面温度の最高は79（前期間は71）と依然高温状態にあった。湯だまり中央部で高さ約5mの、南西側では高さ2～3mの小規模な土砂噴出が観測され、また、湯量の減少に伴い湯だまりの南西側に噴気孔が現れ、勢いよく噴気を噴出していた。さらに、18日に福岡管区気象台が実施した機動観測によると、湯だまり面の広い範囲にわたって、土砂噴出の発生箇所を確認した。

また、17日03時前から継続時間1時間18分の連続微動を観測した他、孤立型微動が671回（前期間は728回）と依然多い状態で、中岳第一火口の浅部の火山活動はやや活発であった。

地震の発生は少なく、噴煙活動や地殻変動には特段の変化はなかった。

雲仙岳 レベル1（静穏な火山活動）

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも特段の変化はなかった。

霧島山 [噴気]

期間中、霧島山の火山活動は全般的に静穏に経過した。

3月9日～11日に実施した機動観測によると、昨年12月に形成された2か所の噴気孔から、依然として白色で少量の噴気が火口縁付近まで上がっているのを確認した。また、15日、16日に監視カメラにより、噴気が火口縁上100～200mの高さに上がっているのを観測した。

桜島 [噴煙] レベル2（比較的静穏な噴火活動）

3月2～4日、9日に続き13、14日と16日にも、桜島で噴火として計数している規模の噴煙活動には至らないものの、火山灰を含む有色噴煙が上がった。今期間の噴煙の最高高度は700m（灰白色）であった。

鹿児島地方気象台（南岳の西南西約11km）では、今年に入ってから降灰は観測されていない。

薩摩硫黄島 [微動]

期間中、連続微動がしばしば発生した。

なお、噴火は確認されず、三島村役場硫黄島出張所によると島内の集落（硫黄岳の西約3km）では降灰は確認されなかった。

口永良部島 [地震]

微動は発生しなかった（前期間もなし）。

地震は2月2日に多発して以降増減を繰り返しており、今期間は短時間に集中して発生することはなかったものの、期間中の合計は前期間（63回）より増加して92回となった。

諏訪之瀬島 [噴火・噴煙・降灰]

爆発は発生しなかったが、十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、12日と15日～17日に火山灰を含んだ噴煙が上がり、12日と15日には集落（御岳の南南西約4km）で少量の降灰があった。

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第138号 (1日2回発表)	11日 09:30	活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想）。
	火山観測情報第151号	17日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第19号	12日 11:00	火山活動が引き続きやや活発（孤立型微動が多い状態）。レベルは2。
口永良部島	火山観測情報第16号	12日 15:00	地震の発生状況は消長を繰り返している。